

げい びつ が く さ ま や よ い 芸術家 草間 彌生



くさまやよい
草間彌生は、
やまな
山並みがうつくしい
ながのけんまつもとし
長野県松本市に、
はな き たね なえ
花や木の種や苗をあつかう
おお とんや すえむすめ
大きな問屋さんの末娘として
う
生まれました。

ちい
小さいころから、

はな いぬ
花や犬が、

ひと ことば はな
人の言葉で話しかけてきたり、

はいいろ
灰色のカーテンにかこまれる

くる
まぼろしに苦しみます。

きょうふ
そうしたおどろきや恐怖を

まいにちえ ところ
毎日絵にかいて心をしずめていました。



せんそう
戦争がおわって、え がっこう い
絵の学校に行き、
ますますいろいろなえ
かくようになりました。



やま
山のむこうには
どんなせかい
世界がひろがっているのだろうか。

みち せかい
未知の世界へのあこがれと、
もっとかぎりなくじゆう こうだい せかい
自由で広大な世界で
じぶん げいじゆつ
自分の芸術をつくりたいという思い。

そのころはまだ、

じゆう がいこく い じだい
自由に外国へ行ける時代ではありませんでしたが、
おお きぼう むね
大きな希望を胸に、あめりかへたびだ
アメリカへ旅立ちます。





ニューヨークで部屋を借りて、
くる日もくる日も絵をかきました。

10メートルもある
大きな真っ黒いキャンバスに
貝がらのように小さな白い丸が
いちめんにつながったあみの絵を
かいて発表しました。

中心もはじまりもおわりもない
白いあみの絵に、

ニューヨークの人々はびっくりぎょうてん。
だれの絵ともちがう絵は、評判になりました。



やわらかい彫刻や

無限の鏡の部屋、

はだかのパフォーマンスなど、

つぎつぎと新しい芸術を作りました。

ねん え ちょうこく
あれからもう60年。絵や彫刻だけでなく、

し しょうせつ えいが あたら ちょうせん
詩や小説、映画にファッション、新しいものにいつも挑戦しています。



まいにち けいじゆつ かんが あさ ばん つく つづ
毎日、芸術のことだけを考えて、朝から晩まで作り続けています。

つく さくひん せかいじゆう
これまで作った作品は世界中で
ひと み
たくさんの人に見てもらいました。

いま
そして今、

さくひん み
いつでも作品が見られるように
くさまやよいびじゆつかん つく
草間彌生美術館を作りました。



み き
見に来てくれてありがとう。